

事業報告書

団体名：亀岡みらいパース

1. 事業名	みんなで作ろう亀岡の未来図
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)

「亀スゴっ！亀岡の魅力を語ろう」シリーズ まちの魅力は人がつくりだす。まちの財産ともいえるスゴイ人たちを囲みいろいろなお話をお聞きして地域の魅力を再発見する場として昨年度に継続し今年度も第7回～第12回の6回を開催しました。

「ソーシャル大学」 城下町と流域文化、歴史、独自の観光スタイルをじっくり学ぶ場として昨年度に継続し今年度も第3回、第4回の2回を開催しました。

■亀スゴっ！報告

○第7回 亀スゴっ！「フェアトレードで亀岡から世界へ」
平成27年4月25日(土)14時～16時 法華寺(亀岡市本町) 参加者総数37名

ゲストには、栽培した人の顔の見えるコーヒー豆をエクアドルから仕入れている春風珈琲の日下部伸行さんと、スリランカで衣料縫製センターを立ち上げた初代詠子さんにお越しいただきました。

・日下部さんは大学を卒業してコーヒー会社で働かれ、その後、コーヒーの産地である南米のエクアドルを訪れたそうです。コーヒー栽培は森を開発してコーヒー畑にすることが一般的ですが、エクアドルのインタグ地方には森林農法という、森の状態のまま木の下でバナナや野菜、コーヒーなどを作る農法があります。コーヒーはある程度日陰があった方がよいので森林農法に適している上、コーヒーが不作であっても他の食べ物も作ることができる自然と共に生きていく農法です。

そんな山奥の森で十数年前に、外部から銅の鉱山開発の計画が持ち上がったそうです。銅を採掘すれば一時的に儲かりますが、森を失ってしまいます。そこでこの地域の人々は開発による目先の儲けではなく、この森を将来に伝えていく方を選び、今もコーヒーを栽培し販売しているそうです。日下部さんのコーヒーはそんなエクアドルの森で作られた豆を使われているのです。

・日下部さんの「おいしい珈琲の淹れ方講座」

珈琲の淹れ方について、たくさんの質問にも答えて下さり、目の前で具体的にわかりやすく教えていただきます。

・初代さんは Punchi Lamai(パンチラマイ)のプランニングスタッフとして、2014年5月スリランカに渡り、北西部の村で Irata(イラータ) プロジェクト染色縫製センターを立ち上げられました。

もともとのおきっかけは Punchi Lamai(パンチラマイ)を経営する藤原響子さんから声がかかり、自分が持つ縫製の技術で指導ができると考えたことからだそうです。

現地に行く前は、スリランカの女性2、3人に縫製を指導すると聞いていたのが、いざ現地に行っていれば30人も女性たちが待っていて、その中から3-4人を選ぶはずが、通訳のいい加減さが原因で全員に縫製を教えることになってしまったそうです。

文化や習慣の違いによる価値観の違いはしょっちゅうで、生地を触る前には手を洗うという指導から始め、縫製では縫って形になっていけばいいと思っているスリランカの女性たちに、丁寧に縫うことを教えるといった日々だったとのこと。経済成長の著しい近隣の国のインドですら、縫い物は返し縫いをしない(※返し縫いをしないと糸がすぐほどけます)、チャックは粗悪品しかない状態で、日本で商品として買ってもらえる製品となるように指導をしていくのは大変困難だったようです。

現在は、適性から判断して4人に集中的に洋服づくりを教えているとのこと。彼女たちを中心に最終的にはスリランカの女性たちが自分たちで染色縫製センターの事業を運営していくことが目標だそうです。

亀スゴっの会場では、スリランカの草木を使い染色された布から仕立てた洋服がたくさん陳列されました。司会を務める住職の杉若から、明るい色の作務衣の発注がありました。

染色の材料には、ジャックフルーツ、ターメリック、アラルの実、パヌギ(木の皮)、蘇芳、柿渋のようなものが使われています。天然素材で染めた布の取り扱い上の注意として、中性洗剤で日陰干しをすることがありました。日光で干すと色が褪せ、漂白剤入りの洗剤では色が消えていくそうです。このようなデリケートさがあってこそ、自然素材によるやさしい発色があるのかもしれません。

最後はPunchi Lamai(パンチラマイ)の服を着こなす女性たちのファッションショーで締めくくられました。ボランティアでモデルを務めてくださったみなさま、ありがとうございました。

○第8回 亀スゴっ!「ようこそ kameoka へ!」

平成27年6月27日(土)14時~16時 法華寺 参加者総数26名

亀岡には外国にルーツを持つ家族のいる方が数多くおられます。私たちのまちが持つホスピタリティ、ボランティア。それらを発揮しながらの多様な取り組みがこの亀岡にあり、外国にルーツをもつ方々との相互の様々なシーンが生まれ育っていることも亀スゴっ!であると考えます。今回は亀岡での取り組み紹介と外国からの方々が実際暮らしてみて如何なものか? パネラーの方々からお話を伺いました。

司会はいつもの杉若住職。住職の其々遠慮なくお話し下さいの設定に話題は縦横無尽に進行し、時に笑いに包まれながらも貴重なお話を伺う事が出来ました。

終了後パネラーの方々から「気持ちよく話すことが出来た」参加者からは「楽しかった。」「今までの亀スゴっの中で一番良かった」等感想をお寄せいただいています。

さまざまな分野の方々と話し合ったこの会は、参加したピラヤターンさんが後日亀岡の他グループの企画に招待されたり、また今回を機に「ドロップイン」に向けての新たな動きが生まれるきっかけ作りとなりました。

当日の簡単なグループ紹介と「日本に来てどうですか? 亀岡はどうですか?」の質問に限定してみなさんのお答えを抜粋致します。

・パネラー

ハーズゲーリーさん(アメリカ)、陳溪嶠(ちん けいぎょう)さん(中国)、ピラヤターンさん(タイ)、ジーン坂本さん(フィリピン)、豊田覚司さん(京・くろかる隊代表)、藤原翠子さん(ゲストハウス藤原邸運営)、児島きよみさん(ひまわり教室主催)

・グループ紹介

[京・くろかる隊]

豊田覚司さん:2010年から活動。クロカルの名前の由来は「クロスカルチャー」から「クロカル」。日本語教室の支援、市民との交流、外国の料理教室を開催、「パウワウ英会話教室」を開催、外国の方から得意分野を学ぶ機会を開催。盆踊りの練習等、活動内容は多彩。[ゲストハウス藤原邸]

[ゲストハウス藤原邸] 藤原翠子さん:築200年以上の古民家からゲストハウスへと大規模な改造をして10年余り。古い家の中にある物を片づけ現在のよう宿泊可能なゲストハウスになる。その整理中に出た不要な物は4トントラック3台以上となる。外国からの学生さんのリピーターが数多く、オクラホマ州立大学の学生が亀岡訪問時には宿泊場所となっている。最近は心を病んでいる人がお料理をしたり、中年の方の英会話教室など、さまざまな活動の場を提供。今では、ニューヨークでダンスをしている人が定期的に利用したり、週に3日は「ワンディカフェ」が開かれるようになり環が広がっている。[ひまわり教室]

[ひまわり教室] 児島きよみさん:現在、週に一度(火曜日)夕方6:00~7:30、ひまわり教室を開催。1対1で、子どもと向き合い勉強を教える。話ができるが読み書きができない母親の方も一緒に勉強したいと参加している。1対1での学習形式で、本人のやりたいことを、やりたい方法でできる。1対1であれば、安心して質問しやすい教室。

・質問

[日本に来てどうですか? 亀岡をどう感じますか?]

:日本語も話せるけれど、話そうとすると無口になる。(英語の方が楽に話せるという意味)

:日本は全部好き! 食べものおいしい。アメリカのハンバーガーは大き過ぎるね。

:京都は日本を代表する町、中国の文化がまだ京都には残っている。古い文化を学びたくて日本語を学んだ。2009年に福井市にいて日本語学校に行っていた。福井市が大好き! 幸福度トップの市。駅の近くに住んでいました。亀岡に来て、学園大を夜、散歩していたら、何もないので驚いた。福井より何も無い。

:亀岡は定年になって住むにはよい町だが。2日前、日本人に質問したところ「亀岡の良いところは?」「田舎」、「悪いところは?」「田舎」(会場笑)

:湯の花温泉は宿泊も温泉の利用も料金が高すぎる。その割に部屋が古い。アパートなどの家賃も高い。

:日本の自然、季節の移り変わりが美しく、日本に住みたいと思い、京都に留学した。大阪兵庫京都の若い世代と兵庫県佐用町の良いところを冊子にまとめている。田舎の良いところは、自然が豊か、コミュニティもいい。田舎は田舎でいい。背伸びしたらダメで、自給自足をしてお金がなくても生きていける暮らしがよい。

: 亀岡は私の田舎と一緒に。16歳の時日本に来た。最初は名古屋、その次に亀岡に住み、亀岡で結婚した。故郷も霧があり田舎。夫が「ホタルを見に行かない？」と誘ってくれたとき、「ホタル」という名前の人に会いに行くのかと思った(笑)。ホタルを見て、みんな喜んでいただけ、自分の故郷はもっと沢山ほたるが飛んでいる。

: ハローワークの手続きがとても困った。日本語が分からないので。

: 亀岡市役所でも、表示が中国語、英語。韓国語になってきたが、それでも書類の提出などにはサポーターが必要。書けない人には、書いてあげればいいと思う。

: 亀岡では自分の存在が目立つため疲れる。日本語がうまくなるともっと楽になる。それから、内と外の付き合い方が分かりにくいこともある。また、悪気がないのだから、失礼なことをよく言われる。例えば「頭が、大きいね〜」とか。仕事からの帰りの電車の中で、嫌な言葉を聴くととても疲れる。

: 日本人の曖昧さが分かりにくい。「それは〜ちょっとお〜」と言われ、ここで文章が終わると意味が分からない。母国の場合は、率直に話す。(曖昧にしないで)最後まできちんと話してほしい。断る場合でも、最後まで言葉をはっきり言ってくれてかまわない。相手の気持ちを気にしなくていいから。

: 亀岡だと更に曖昧になって難しい。料理の味を尋ねてみても、「う〜ん、おいしい。う〜ん」で、「どっちなん?!」と言いたくなる。

: 違う文化を感じる。1年目は環境にとけこもうと努力した。しかし、違いがわかったうえで、どちらも期待しないことにした。当たり前だと思わなくていいと思うようになった。

: 公の場や観光地等は表示に外国語が増えるとよい。今は道に迷ったとき困る。

: 安く泊まれるホテルや宿泊施設が少ない。湯の花温泉は高すぎる。

○第9回 亀スゴっ!「亀岡の由緒正しき妖怪たち・妖怪ウォッチング!」

平成27年8月29日(土)14時~16時 法華寺 参加者総数32人

ゲストは京都学園大学人間文化学部教授の佐々木高弘さん。

ご専門は文化・歴史地理学ですが、妖怪論研究者としても有名です。

佐々木先生のお話は、アニメ妖怪ウォッチの話から始まり、陰陽師から侍の時代への変化に伴う妖怪とのかかわりの変化、亀岡の妖怪、そして会場の法華寺の住職であり亀岡みらいパースのメンバーでもある杉若との対談へと進んでいきました。

”ゲラゲラポー”で一大ブームを引き起こした妖怪ウォッチの歌詞に深い意味が隠されていたことを知ったり、妖怪とは一体なものなのか?という歴史的、政治的、地理的、心理的な要因など、様々な角度からの考察を伺いました。また亀岡と妖怪の関係にも歴史のある深い関係性がある事も学びました。

○第10回 亀スゴっ! 料理教室

講師 「京懐石 雅」店主 西田浩二さん

10月7日 ガレリアかめおか 調理室 10時～14時 参加者総数 15名

秋の味覚をテーマに亀岡の食材を使い、プロの技を伝授いただきました。



「京懐石 雅」の西田さん(右)から料理のこつを聞く参加者たち—亀岡市余部町・ガレリアかめおか

和食のこつプロに学ぶ 亀岡で料理教室

亀岡市の市民グループ「亀岡みらいパース」で開いた。参加者は「ヒラタケや白菜など地元産の旬の食材を使った和食を作り、プロの技を聞いた料理教室を学んだ。西田さんは下矢田町のガレリアかめお

の「京懐石 門」の店主を務めた後、5月に雅をオープンした。教室では、サワラのつみれ鍋やサツマイモの炊き込みご飯など4品を調理。西田さんは、火加減や食材の発色を保つポイントを丁寧に伝えていた。参加した主婦の井上美佐緒さん(51)は「市販の料理本には載っていないプロの技を聞いた」と喜んでいました。同グループは「亀スゴッ」と題して、さまざまな分野で活躍する亀岡ゆかりの人を招いた講演会や料理教室を定期的に開催しており、今回で10回目。

(中村幸恵)

京都新聞 に掲載されました。

○第11回 亀スゴっ! 「ムクムクマーケット!」

11月21日(土)10時～15時 法華寺 参加者総数 250名

11回目となる今回は、暮らしの中の道具の大切さや手作りの持つ価値など、日々の生活を見直すきっかけづくりとなるような、パン、お菓子、糍、野菜、コーヒー、古本などのマーケットを開催するほか、包丁コーディネーターの廣瀬康二さんにお話し頂きました。

亀スゴっとしても初めての試みとなるお寺でのマーケットは、亀スゴに毎回出店してくださっている「フェアトレード珈琲屋 春風」・「地元の無農薬・減農薬農産物を販売する 369商店」をはじめ、亀岡に最近 OPENした素敵なお店「cafe つきよみ」・「薪釜パン ふくる」・「糍屋 qotoriya」、亀岡の若手農家「とうかげん」・「べじたぶるぼーと」、その他「ヴィーガンスイーツ 菓風」・「京都西陣の古本屋 KARAIMO BOOKS」・「Glass Studio Calore (グラススタジオカローレ)」・「天然酵母パン 森ふみこ」・「春ちゃんの手作りキムチ」・「ひろりんさんの手作り雑貨」・「向井さんの手作り4年味噌」・「井内さんのあんかけおこげ」の総勢15店舗がお寺の本堂に勢揃いしました。

10時の開始前から来られるお客様もいたくらい開始から途切れることなく人が来られてました。

法華寺の素敵な雰囲気の中でパンやカレーの匂いが漂い、それぞれ想いのこもった一品が所狭しと並ぶ、あ

る意味ぜいたくな空間だったのではないのでしょうか？出店者とお客様が話で盛り上がりたり、子どもが走り回ったり、活気がありながら晴天にも恵まれ、のどかな雰囲気もあるマーケットとなりました。

お昼からは廣瀬さんの包丁ワークショップが行われ、普段なかなか聞くことのない包丁職人の話にみなさん耳を傾けていました。

初めての試みでしたが、たくさんのお客様に来て頂き完売したお店も多かったです。今回この場に来て頂くことで、後日お店を訪ねたり、新たな交流が生まれたり、亀岡の新しい一面を知るきっかけになったのではないかと思います。

○第12回 亀スゴっ！「町×人×アート」

平成27年2月6日(土) 法華寺 参加者総数 200名

今回は同時進行で行われているカメオカアートボンチ「おみせでさくひんてん」特集ということで、アートボンチに参加しているお店と作家が一挙に法華寺に集結しました。

お寺を舞台にした埴輪と陶芸と巨大画の大胆な展示コラボあり。仏像とはっさくのコラボあり。

入り口の合同 cafe では各お店自慢のおにぎり、サンドイッチ、お菓子、シフォンケーキ、パンが所狭しと並び、本堂ではコーヒーの良い香りの中でガラスや陶器や木工の作品が生き生きと輝いていました。

ぜんざいや鶏肉の赤ワイン煮込みを注文して特製巨大テーブルで飲食も楽しむことができ、たくさんの方にご来場いただきました。

途中のトークでは作家さん、お店屋さんそれぞれの思いを話して頂きました。アートボンチのきっかけはふとした閃きから話が盛り上がり「おもしろいことやろう」とお互いを良く知らないまま開催の運びとなったそうです。ギャラリーではなく普通のお店で展示してもらうことが面白いし、気軽に見てもらえるとのこと です。

アートボンチのお店は8店中6店が昨年できたということで、新店が本当に多いです！亀岡界隈のお店が今盛り上がりつつあることが今回のイベントでも実感できたと思います。

私たちはこの亀岡アートボンチの取り組みが町の活性化としての一環であると評価し広く紹介いたしました。

■亀岡ソーシャル大学

○ 第3回亀岡ソーシャル大学

外国人観光客への本当の「おもてなし」とは…亀岡の観光未来図 ～これからの外国人観光客誘致(インバウンド)を考える！！

2016年1月31日(日曜日)PM 13時30分～17時00分 参加者総数 40名

【講師】

豊田知八さん(保津川遊船企業組合・理事長) 真鍋量さん(あっちこっちプロジェクト・代表)

林 亦峰(リン イホウ)さん(天橋立観光協会) 原田 禎夫さん(プロジェクト保津川代表)

亀岡市内外から 34 名の参加がありました。

亀岡のこれからの観光のあり方について、考えるヒントがたくさんつまった学びの場となりました。

以下、各講師のお話しの要点です。

- ①保津川遊船企業組合 理事長 豊田 知八さん・保津川下りにおける外国人観光客の動向と、今後の誘致戦略・保津川遊船の課題と「おもてなし」のあり方、そして、可能性
- ②あっちこっちプロジェクト 代表 真鍋 量さん・あっちこっちプロジェクトの活動内容と今後の展望・真鍋さんが考える外国人観光客に対する「おもてなし」とは…そして、各方面各所などの問題点（例えば、京都駅の案内所や案内板がわかりにくいなど）(だから市民レベルの案内ボランティアが必要など)
- ③天橋立観光協会 林 亦峰(リン イホウ)さん・天橋立観光協会がなされている誘致活動やその特徴。今後の展開や展望・台湾・中国の方へのより良い「おもてなし」とは…(観光における台湾人と中国人の違いなど)
- ④プロジェクト保津川 代表 原田 禎夫さん・亀岡の魅力と、観光未来の可能性、そして問題点・小さな町ができる外国人観光客への「おもてなし」とは

京都新聞に掲載されました。

○第 4 回亀岡ソーシャル大学『明智光秀と本能寺の変、そして亀岡』

2 月 27 日(土曜日)ガレリアかめおか 参加者総数140名

講師は「本能寺の変 431 年目の真実」の著者、明智光秀の末裔でもある明智憲三郎さんをお招きし講演して頂きました。

明智憲三郎さんから、

本能寺の変の真相をめぐる幾多の諸説がありながら、その多くの研究者は勝者側である豊臣秀吉が書かせた「軍記物」から引用を用いていることを指摘、本能寺の変と同時期に書かれた公家の日記やイエズス会の宣教師の記録などの資料を照らし合せて独自の視点で「歴史捜査」された説を述べられました。

また、歴史学会が見落としがちなこととして、戦国武将が本来一般教養とした「孫呉の兵法」(孫子・呉子)を当然学び活用して行動したこと、また「平家物語」や「吾妻鏡」などから得た一族が生き残る知恵、当時の戦国武将達が第一とする『生存合理性』を見落とししまっていることも指摘されていました。

第二部のフリートークでは、

明智憲三郎さんと亀岡市文化資料館の黒川館長、同文化資料館友の会の奥村としゆきさんと、会場の皆さんとで「丹波武士」の特性、明智光秀が亀岡に残した遺産などを熱く語られました。

今回、亀岡みらいパスといたしましては、かつての城主で亀岡の町の基礎を築いた明智光秀を再評価し、地域の歴史・文化・伝統を掘り起こすことを目的といたしました。

参加者の大多数が地元の亀岡の市民の方々ばかりで、やはり亀岡において明智光秀人気は絶大であることと、いかに亀岡市民が自分たちの郷土の歴史を愛しているかということの主催者側として確信することができました。

3. 成果	事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。
--------------	--

上記内容にて今年度は「亀岡の魅力を話そう！亀スゴっ！」6回、ソーシャル大学2回の8回を開催を通し、総参加者数は725人と昨年度を大幅に上回る参加者数となりました。

私たちは以下の2点を活動の課題としました。

- ・亀岡の伝統技術や文化的遺産を引き継ぐ人材を育てる事。
 - ・新たな切り口で亀岡の魅力を作りだす若い世代と年配者との交流の場がない。
- 新しい着想で亀岡の魅力を作り出す若い世代と年配者が交流する場が無い。若い世代からも学び、世代を超え共に話し合い体験していく機会を作り次世代への布石を打つ時期であると考える。

今年度活動の目標を以下の4点としました。

- 1 亀スゴっ！ソーシャル大学の開催により、様々な立場の参加者と共に話し合い、亀岡での暮らしのあり方や将来への展望を分かち合う場を作り、新たな亀岡の魅力を掘り起こす未来図を参加者各々が探るきっかけ作りを目指す。
- 2 亀スゴっ！・ソーシャル大学のテーマを、次世代へつなぐ伝統技術の継承、城下町と流域文化、歴史を学ぶ、独自の観光スタイルへの取り組み等とする。
- 3 亀岡の伝統的な魅力(自然・文化資源)を伝承しながらも、現代との折り合いを探る取り組みを紹介する。
- 4 亀岡市内だけでなく市外にも広く呼びかけ亀岡の魅力を発信する場とする。

上記目標に沿い亀スゴっ！6回、ソーシャル大学2回のテーマを設定し、各回において成果を得、また参加者と共に活発な話し合いを持つことができました。

目標1について

亀スゴっ！ソーシャル大学の開催により、様々な立場の参加者と共に話し合い、亀岡での暮らしのあり方や将来への展望を分かち合う場を作り、新たな亀岡の魅力を掘り起こす未来図を参加者各々が探るきっかけ作りを目指す

全体を総じ幅広く市民に呼びかけることにより、いつも固定された同じ顔ぶれではなく、各企画テーマに沿った新たな参加者との話し合いを深める場となりました。

多様なテーマを通し、参加者各々が様々な角度から亀岡の魅力を掘り起こす機会を企画することが出来ました。

目標 2 について

亀スゴっ！・ソーシャル大学のテーマを、次世代へつなぐ伝統技術の継承、城下町と流域文化、歴史を学ぶ、独自の観光スタイルへの取り組み等とする。

亀スゴっ！ 第 8 回「ようこそ亀岡へ」ソーシャル大学第 3 回「亀岡の観光未来図～これからの外国人観光客誘致(インバウンド)を考える！」において、亀岡のまちとしての「ホスピタリティ(おもてなし)」、独自の観光スタイルへの取り組みをテーマとし具体的な事例として検討しました。

亀スゴっ！ 第 9 回「亀岡の由緒正しき妖怪たち」において古事記、日本書紀に記述される亀岡の妖怪から、亀岡の文化遺産として亀岡の歴史的、地理的、政治的な位置づけを学びました。

亀スゴっ！ 第 10 回「料理教室」において、亀岡野菜を使った旬の京料理の伝統を学びました。

ソーシャル大学 第 4 回「明智光秀と本能寺の変、そして亀岡」において、亀岡が出陣の土地となった本能寺の変の真相、また明智光秀と当時の丹波武士への考察を深め、亀岡の歴史的財産としての価値を評価をする場ともなりました。

目標 3 について

亀岡の伝統的な魅力(自然・文化資源)を伝承しながらも、現代との折り合いを探る取り組みを紹介する。

亀スゴっ！ 第 7 回「フェアトレードで亀岡から世界へ」において、フェアトレードと云う新たな価値観を基に展開する事業について学びました。

第 10 回「料理教室」 第 11 回「ムクムクマーケット」において亀岡ならではの自然環境、農産物等を生かした伝統料理、手作りの良質な作品等を通し、日常生活を見直す契機とするとともに亀岡に根をおろした其々の取り組みを紹介しました。

第 12 回「亀岡アートボンチ 人×町×アート」において、亀岡で近年開業したばかりのショップオーナー、アーティストという若い世代を中心とした「カメオカアートボンチ」の取り組みを亀岡のまちを活性化するものとして評価し紹介しました。

どの企画においても若い世代と年配者とが同じ体験を通し世代を超えた交流の場を実現しました。特に年配者が若い世代から学ぶ機会となり、また、亀岡で何が出来るのかを模索する若年層にとっても大変有意義な企画であったとの反響がありました。。

目標 4 について

亀岡市内だけでなく市外にも広く呼びかけ亀岡の魅力を発信する場とする。

亀スゴっ！ソーシャル大学のどの企画においても、京都市、南丹市、城陽市、高槻市等、市外からの参加者があり、特にソーシャル大学第 4 回「明智光秀と本能寺の変、そして亀岡」においては、遠くは関東地域(東京、神

奈川、千葉)からも参加がありました。

これは私たちの「亀岡の魅力」としての発信が、亀岡圏内だけに留まらず広く全国にも評価される結果となりました。、私たちの活動を通し亀岡の魅力が多くの方々に伝わりましたことを大変嬉しく思います。

4. 協働の効果

※市民連携事業・行政連携事業のみご記入ください。

事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。

5. 今後の展開

事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。

今年度「亀スゴっ!」「ソーシャル大学」の8回の開催し参加者総数750名を参加を得た実績、各回の目標の達成と成果を踏まえ、来年度も継続した活動目標を更に充実した内容で展開します。

来年度の活動目標

1 亀スゴっ! ソーシャル大学の開催により、様々な立場の参加者と共に話し合い、亀岡での暮らしのあり方や将来への展望を分かち合う場を作り、新たな亀岡の魅力掘り起こす未来図を参加者各々が探るきっかけ作りを目指す。

2 亀スゴっ! ソーシャル大学のテーマを、次世代へつなぐ伝統技術の継承、城下町と流域文化、歴史を学ぶ、独自の観光スタイルへの取り組み等とする。

3 亀岡の伝統的な魅力(自然・文化資源)を伝承しながらも、現代との折り合いを探る取り組みを紹介する。

4 亀岡市内だけでなく市外にも広く呼びかけ亀岡の魅力を発信する場とする。

「亀スゴっ!」においては多くの人たちと連携し息の長い活動として展開できるように、会独自の自立した運営を目指します。

「ソーシャル大学」においては、企画全体をスケールの大きなものとし、より深くテーマを掘り下げる機会とし、亀岡の魅力を多くの人たちに発信できるように、更に大きな基盤を作り展開することを目指します。

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。